
私の自由時間

斎藤佑祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の自由時間

【Nコード】

N8747V

【作者名】

斎藤佑祐

【あらすじ】

金曜日の夜11時、私は今月二回目の家出を決行する。

私はいま家出をしている。今月に入って二回目の、今年になってからは十八回目の家出だ。しかし、他人がこのことを聞けば鼻で笑うだろう。なぜなら家出は日帰りなのだから。

金曜日の深夜十一時に私の家出は始まる。ルールはない。行きあたりばったりで道を決めていく。今日は月に向かって家出することにした。見つけたコンビニで水を買って歩きながら飲む。そしてただ音楽を聴きながら歩く。どこまで行くのかも自分で決めない。本当に適当な家出だ。

私はクラスでは地味な存在だ。馴染み方がわからない。それでもいいのかと思うのだが、割り切るほどの決心もない。自分は「優しい」人間だと思う。誰にでも平等であろうと心掛けている。でもそんなものは偽物だと確信している自分がいる。誰にでも平等だということは、誰とも仲が良くないってこととイコールなのだ。人として感情の量が少ないのかと思ったりもする。それはそれでもいいと思う。問題は私の中であって、私の問題なのだから。

一晩中歩き続けるのはさすがに疲れるので、適当にベンチを見つけてまた水を飲む。目を閉じれば自分の身体がどれほど水を欲していたかわかる。全細胞が一滴も残すまいと吸収していく。

本物の夜はもうない。私が生まれるより前に人工物の夜に取って代わられてしまった。それでも時々、本物の残滓が蠢くの感じる。彼らはまだ生きてこの人工物を背後から窺っている。

絶えることのない光を避けて、暗闇の息吹を探す。偽物の夜は人間に内省を強いる。答えは必要のない内省だ。こんな薄っぺらな暗

闇の中で何を考えろというんだ。こんな存在感が希薄な中に何があ
るというんだ。

くだらなくくだらないことを一巡考えたあと、心動かされること
のない音楽に集中し歩き続ける。ヒットチャートを占める曲なんて
どれも同じだ。『君』と『僕』がいて寂しさとか愛しい人への言葉
とか、そんなものばかりに気をかければいい。私は本当にそれらを
必要としているのか。

そんなものばかりが続くと世の中が非常に単純に構成されている
という気になってくる。私はそのことを確認しているのかもしれない。
でなければ世界は複雑過ぎる。身に余る。

鬱屈していることが自分にふさわしいと思う。それ以外のことな
ど考えたことがない。習慣として自分を卑下しているのか、生まれ
ながらのネガティブさなのか判断がつかない。

頭の中がクルクル回転して、ひとつのことに集中できなくなる。
眩暈に似た感覚。倒れそうになるのを必死に抑えて、歩く。煩わし
い。自分が習得したひとつひとつの性質を残らず潰してやりたい。
クリーニング後のように汚れをすべて落とし、生まれ変わるのだ。
そのときの私が今の私の記憶を持っていなくても構うものか。私は
きれいなんだから、こんな薄汚れた今の私のことなんか構うものか。

夜が明けるまでにはまだ時間がある。それにまだ遠くと呼べるほ
どの距離でもない。時間は刻々と進み、足は確実に前進していると
いうのに、それでも私にまだ「距離」を感じさせないのだ。私は歩
き、どこも目指さないながら自分の範疇を脱しきれないでいる。

オママゴトのような家出を繰り返し返している。「遠い」「何処か」
に憧れながら、帰る手段を考えている。

私は時間に憧れる。誰にでも平等という点で、誰にでも無慈悲と
いう性格に。時間がかかる慈悲など人間の作用でしかない。記憶を
時間軸上に置き距離を測ってみる。遠ければ遠いほど人は忘れてい

く。

時間は死に似ている。ただ死よりももっと善良な表情を浮かべているだけだ。

それでも6時までには私は家に帰っている。一日が始まる前のほんのわずかな時間だけが私の自由時間なのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8747v/>

私の自由時間

2011年10月6日23時44分発行